

葛城市・広陵町地域循環型社会形成推進地域計画（第2期）

計画期間 平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日

平成25年12月24日

1 地域の循環型社会形成を推進するための基本的な事項

(1) 対象地域

構成市町村名 葛城市、広陵町
面積 49.9 km²
人口 71,406人 (平成25年10月1日現在)

(内訳)

市町村名	葛城市	広陵町
面積(km ²)	33.7	16.2
人口(人)	36,837	34,569

(2) 計画期間

本計画は、平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間を計画期間とする。

なお、目標の達成状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要な場合には計画を見直すものとする。

(3) 基本的な方向

葛城市と広陵町は、現在、広陵町のゴミ燃料化处理施設（炭化处理施設）で製造しているRDF炭化物を葛城市が計画している新処理施設の助燃剤として活用する計画概要であり、葛城市においては、RDF炭化物を活用することにより、現在助燃剤として使用している重油を節減し、立ち上げやカロリー不足の際に使用することにより、燃焼効率の向上を図ることができる。

また、容器包装リサイクル体制を確立するために、広陵町においては、既に新施設が稼働し、平成16年10月に新庄町と當麻町が合併し誕生した葛城市においては、処理量が増大するため、リサイクルセンターを拡充することを中心とした循環型社会にふさわしい廃棄物リサイクル処理システムの構築を図る。

こうしたことから、早急に新しい処理施設の整備を実施する必要がある。

施設整備を進めていく上で、前述の各種課題をクリアしていくことを念頭におき、次のように定める。

循環型社会への転換を進めていくための資源有効利用施設を整備する。

(4) 広域化の検討状況

奈良県においては、ゴミの適正処理ならびにダイオキシン類の排出削減対策等について一層の推進を期するため、「奈良県ゴミ処理広域化計画」を平成11年3月に策定された。葛城市と広陵町が属する葛城ブロックは4市4町で構成され、

広域による処理施設整備を目指しているが、既存施設の耐用年数の違いや、既に新施設の整備を計画していた自治体もあり、足並みが揃っていない状況である。そのため将来的には葛城ブロックによる広域処理施設で廃棄物処理を行うこととなるが、それまでの過渡期については、より小さなブロックやそれぞれ単独施設による処理を行うなかで、廃棄物の3Rを広域的に推進していかなければならない。

2 循環型社会形成推進のための現状と目標

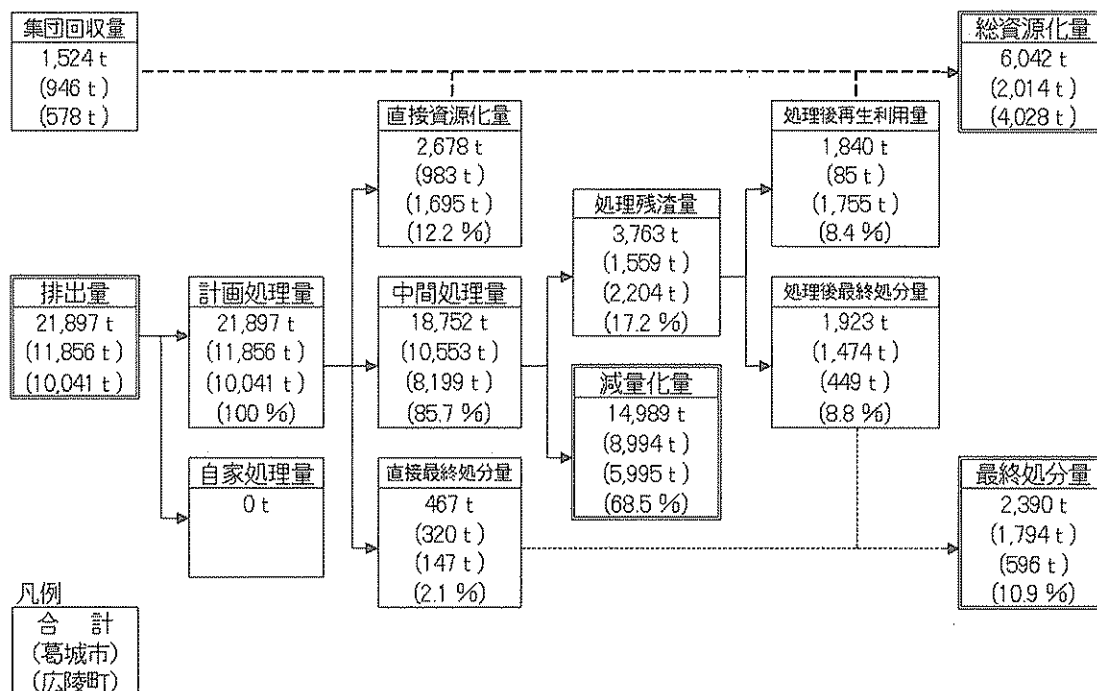
(1) 一般廃棄物等の処理の現状

平成24年度の一般廃棄物の排出、処理状況は図1のとおりである。

総排出は、集団回収量も含め、23,421tであり、再生利用される「総資源化量」は6,042t、リサイクル率(= (直接資源化量+中間処理後の再生利用量+集団回収量) / (ごみの総処理量+集団回収量))は25.8%である。

中間処理による減量化量は14,989tであり、集団回収量を除いた排出量のおおむね68.5%が減量化されている。また、集団回収量を除いた排出量の約10.9%にあたる2,390tが埋立てられている。しかしながら、現存の焼却施設については、温水等の熱利用は出来ていないのが状況である。

図1 一般廃棄物の処理状況フロー



(2) 一般廃棄物等の処理の目標

本計画の計画期間中においては、廃棄物の減量化を含め循環型社会の実現を目指し、表1のとおり目標値を定め、それぞれの施策に取り組んでいくものとする。

葛城市では、新施設整備に併せて資源ごみ等の分別区分の統一および拡大を図る一方、現在は焼却処分を行っている農業残渣、剪定枝等については、堆肥化施設の整備により総資源化率を平成31年度で27.5%とすることを目標とする。

また、広陵町では、新たに整備したストックヤード及び啓発推進施設を活用し、さらなるリサイクル推進を図り、平成31年度の総資源化率目標を41.1%とする。

表1 減量化、再生利用に関する現状と目標

指標		現状(割合) (平成24年度)		目標(割合) (平成31年度)	
排出量	事業系 総排出量(葛城市)	3,207	トン	3,207	トン (-0.0%)
	1事業所当たりの排出量	2.5	トン/事業所	2.5	トン/事業所 (-0.0%)
	事業系 総排出量(広陵町)	2,238	トン	2,232	トン (-0.3%)
	1事業所当たりの排出量	2.0	トン/事業所	2.0	トン/事業所 (-0.3%)
	事業系排出量小計	5,445	トン	5,439	トン (-0.1%)
	家庭系 総排出量(葛城市)	8,649	トン	7,957	トン (-8.0%)
	1人当たりの排出量	235	kg/人	222	kg/人 (-5.7%)
	家庭系 総排出量(広陵町)	7,803	トン	7,785	トン (-0.2%)
	1人当たりの排出量	227	kg/人	225	kg/人 (-0.8%)
	家庭系排出量小計	16,452	トン	15,742	トン (-4.3%)
事業系家庭系排出量合計		21,897	トン	21,181	トン (-3.3%)
再生利用量	直接資源化量(葛城市)	983	トン (8.3%)	1,343	トン (12.0%)
	直接資源化量(広陵町)	1,695	トン (16.9%)	1,705	トン (17.0%)
	直接資源化量計	2,678	トン (12.2%)	3,048	トン (14.4%)
	総資源化量(葛城市)	2,014	トン (17.0%)	3,074	トン (27.5%)
	総資源化量(広陵町)	4,028	トン (40.1%)	4,113	トン (41.1%)
	総資源化量計	6,042	トン (27.6%)	7,187	トン (33.9%)
熱回収量	熱回収量(年間の発電電力量)	-		-	
減量化量	中間処理による減量化量(葛城市)	8,994	トン (75.9%)	7,484	トン (67.0%)
	中間処理による減量化量(広陵町)	5,995	トン (59.7%)	5,883	トン (58.7%)
	中間処理による減量化量計	14,989	トン (68.5%)	13,367	トン (63.1%)
最終処分量	埋立最終処分量(葛城市)	1,794	トン (15.1%)	1,552	トン (13.9%)
	埋立最終処分量(広陵町)	596	トン (5.9%)	595	トン (5.9%)
	埋立最終処分量計	2,390	トン (10.9%)	2,147	トン (10.1%)

※1 排出量は現状に対する割合、その他は排出量に対する割合

※2 (1事業所当たりの排出量) = {(事業系ごみの総排出量) - (事業系ごみの資源ごみ量)} / (事業所数)

※3 (1人当たりの排出量) = {(家庭系ごみの総排出量) - (家庭系ごみの資源ごみ量)} / (人口)

《指標の定義》

排出量 : 事業系ごみ、生活系ごみを問わず、出されたごみの量(集団回収されたごみを除く) [単位:トン]

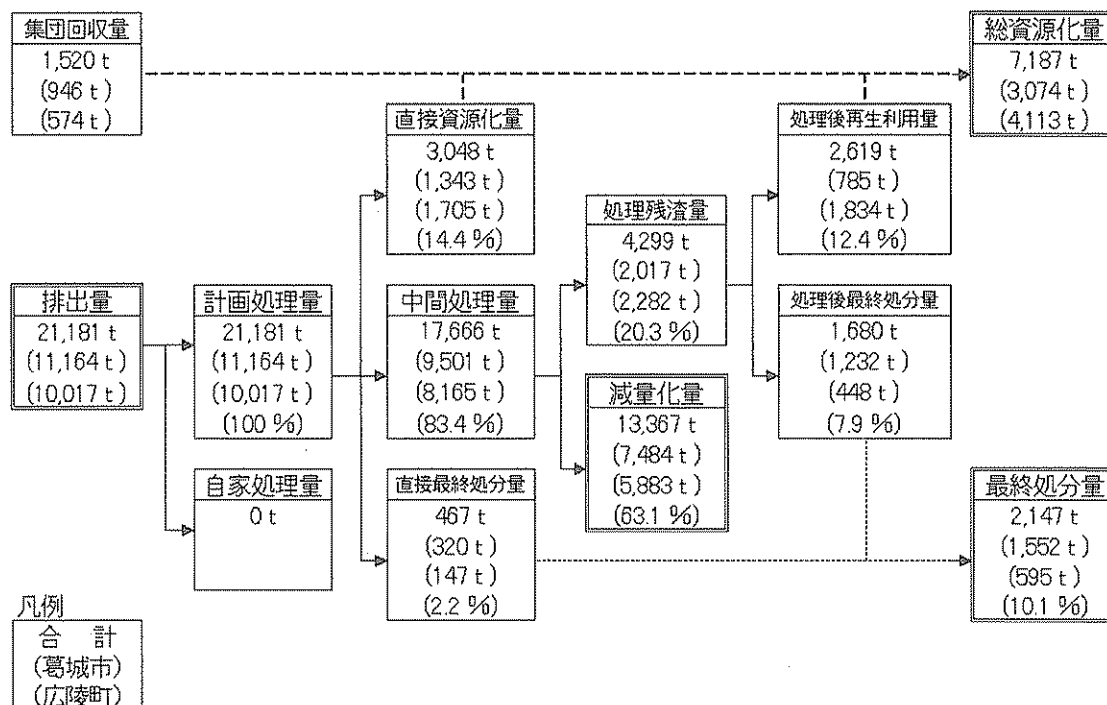
再生利用量 : 集団回収量、直接資源化量、中間処理後の再生利用量の和 [単位:トン]

熱回収量 : 熱回収施設において発電された年間の発電電力量 [単位:トン]

減量化量 : 中間処理量と処理後の残さ量の差 [単位:トン]

最終処分量 : 埋立処分された量 [単位:トン]

図2 目標達成時の一般廃棄物の処理状況フロー



3 施策の内容

(1) 発生抑制・再使用の推進

① 住民に対する環境教育、啓発活動、助成

葛城市・広陵町ともに、ゴミの減量化・再資源化の必要性や、家庭でできるゴミの発生・排出抑制の方策について、学校や地域社会の場において、副読本を活用した教育や、ゴミ処理施設の見学などの教育啓発活動に積極的に取り組む一方、広報紙等によるPR活動をさらに展開していく。

また、現在実施している、資源回収助成・生ゴミ処理機購入補助など一層の充実を図る。

さらに、広陵町においては、清掃施設、環境学習センター等を活用し、環境保全リサイクル意識の向上、RDF炭化物の活用等の研究推進のため、環境リサイクル学習会の継続的開催を予定し、さらにフリーマーケットやガレージセール、また不用品交換情報を提供し、家庭の不要品を売却交換し、ゴミの減量化に努める。

② マイバック運動

買物袋等のゴミを減らす観点から、商工会・大手スーパー等と協力し、買物の際には、買物かご・買物袋を持参するマイバックキャンペーンを推進する。

③ 分別収集計画

葛城市においては、今後古紙類・白色トレイ等の分別収集を早急に実施することはもとより、平成28年度には、剪定枝、野菜残渣等の再資源化を進めるため、剪定枝をチップ状にし、野菜残渣を加え堆肥化する施設整備の着工を計画している。

また、市町村合併に伴い量的に増大した資源ゴミの再資源化を推進するために、処理規模に応じたりサイクルセンターの整備を図る。

一方、広陵町においても、平成22年度に整備した保管施設等を活用し、紙パックの分別を実施している。

④ ごみの有料化

広陵町においては、すでに排出抑制と、一層の費用負担の公平性確保のため、家庭ゴミについても、指定袋を媒体とした均一従量制・小売店前納方式により実施しているが、葛城市においても、出来る限り足並みを揃えるため、今後、基礎調査・検討を実施し、その検討結果をふまえ、平成28年度以降に有料化を実施する予定である。

(2) 処理体制

1) 家庭ごみの処理体制の現状と今後

分別区分及び処理方法については、表2のとおりである。

現状、葛城市においては、合併後、まだ地域によって分別収集の区分が異なっており、今後は早急に分別区分の統一を行い、資源化を図るとともに、現在一部を埋め立て処分している、燃やせないごみや、粗大ごみを、今後施設の整備により、破碎分別し資源化を図っていく。また、当計画にも盛り込まれている、現在焼却処分を行っている剪定枝等の破碎堆肥化施設の整備を行い、また可燃ゴミについても、現在老朽化した2つの焼却施設を統合した、熱利用の出来る焼却施設を新しく整備し、広陵町の炭化物を一部助燃材として利用する。

また広陵町においては、現在紙パックを含め、17品目の分別を実施しているが、展示施設等の活用により住民のリサイクル意識の高揚を図り、さらにごみ減量化をはかるとともに、現在市町間で分別方法が異なっていることについても、今後分別区分の統一化を図りながら、分別収集を徹底し、さらに再生利用も進めていく。

2) 事業系一般廃棄物の処理体制の現状と今後

事業系一般廃棄物は、家庭ごみの分別区分ほど徹底されていないのが現状である。今後は、企業誘致によるごみ量の増加も考えられるが、排出事業者及び収集業者への分別指導により、分別・減量を推進していく。また多量排出事業所に対して、事業系一般廃棄物の排出の抑制及び再利用並びに適正な処理に関

する計画書を提出してもらい、ごみ減量化についての指導、助言を行っていく。

3) 今後の処理体制の要点

- ① 葛城市において、老朽化した2つの焼却施設を統合した、熱利用の出来る焼却施設を新しく整備し、広陵町の炭化物を一部助燃材として利用する。
- ② 燃やせないごみや、粗大ごみの一部を埋立処分していたが、今後破碎分別施設を整備し、資源化を図ることにより処理方法を統一化していく。
- ③ 事業系一般廃棄物の分別を徹底するため、排出業者へ分別指導を行うことにより、分別・減量を推進していく。

表 2 葛城市・広陵町の家庭ごみの分別区分と処理方法の現状と今後

分別区分	現 状 (H24年)			広 陵 町		
	処理方法	処理実績 (トン)	処理施設等	処理方法	処理実績 (トン)	処理施設等
燃やせざるごみ	焼却	7,037	新庄C.C	RDF炭化	4,557	クリーンセンター広陵
燃やせざるごみ	埋立 リサイクル	320	委託	破碎・圧縮 分別	281	クリーンセンター広陵
プラスチック製容器 包装ごみ	焼却	可燃ごみに含む	新庄C.C	リサイクル	512	クリーンセンター広陵
白色トレイ	リサイクル	2	・富原C.C (富原地区)	リサイクル	1	クリーンセンター広陵
その他プラスチック類	焼却	可燃ごみに含む	新庄C.C	複合	134	委託
リサイクル素材	リサイクル	73		複合	44	協会
ペットボトル	リサイクル	37		委託	37	委託
アルミ缶	リサイクル	74		委託	112	委託
スチール缶	リサイクル	258		協会	110	協会
ビン類	リサイクル	261		リサイクル	1387	クリーンセンター広陵 選別
資源ごみ	リサイクル	167		リサイクル	4	エコセンター
紙類	リサイクル	66				
雑誌・書籍	リサイクル	42				
新聞	リサイクル	3				
ダンボール類	リサイクル	不燃ごみに含む			13	委託
布類	リサイクル					
紙パック	リサイクル					
有害ごみ	その他					
電池・蛍光灯	その他					
粗大ごみ	埋立 リサイクル	309	委託	資源化	611	可燃(焼却) 金属(資源化) 残渣(埋立)

分別区分	今 後 (H31年) 葛城市の場合			今 後 (H31年) 広陵町の場合		
	処理方法	処理実績 (トン)	処理施設等	処理方法	処理実績 (トン)	処理施設等
燃やせざるごみ	複合 資源化	5,285	葛城市クリーンセンター	RDF炭化	4,545	クリーンセンター広陵
農業・剪定残渣	堆肥化	700	葛城市堆肥センター	炭化		
燃やせざるごみ	複合	320	葛城市クリーンセンター	複合	280	可燃(焼却) 金属(資源化) 残渣(埋立)
プラスチック製容器 包装ごみ	リサイクル	380	葛城市クリーンセンター	リサイクル	514	協会
白色トレイ	リサイクル	2	葛城市クリーンセンター	リサイクル	1	売却
その他プラスチック類	複合	可燃ごみに含む	葛城市クリーンセンター	複合	134	焼却(熱回収)・埋立
リサイクル素材	リサイクル	73		複合	44	協会
ペットボトル	リサイクル	37		委託	38	委託
アルミ缶	リサイクル	74		選別	113	委託
スチール缶	リサイクル	258		選別	110	協会
ビン類	リサイクル	261		リサイクル		
資源ごみ	リサイクル	167		リサイクル	1388	売却
紙類	リサイクル	66		リサイクル		
雑誌・書籍	リサイクル	42		リサイクル		
新聞	リサイクル	3		リサイクル		
ダンボール類	リサイクル	不燃ごみに含む		再資源化	4	売却
布類	リサイクル			再資源化		
紙パック	リサイクル			再資源化		
有害ごみ	再資源化			再資源化	13	委託
電池・蛍光灯	再資源化			再資源化		
粗大ごみ	資源化	309	葛城市クリーンセンター	資源化	601	可燃(焼却) 金属(資源化) 残渣(埋立)

(3) 処理施設の整備

上記(2)の分別区分及び処理体制で処理を行なうため、表3のとおり必要な施設整備を行なう。

表 3 整備する処理施設

事業番号	整備施設種類	事業名	処理能力	設置予定地	事業期間
1	マテリアルリサイクル推進施設	葛城市クリーンセンター整備事業	8 t/日	葛城市當麻120番地	H26~H28
2	有機性廃棄物リサイクル推進施設	剪定枝等破砕堆肥化施設整備事業	3 t/日	葛城市笛堂282番地	H28~H30
3	熱回収施設	葛城市クリーンセンター整備事業	50 t/日	葛城市當麻120番地	H26~H28

(整備の理由)

事業番号1 既存施設の能力不足、リサイクル率向上

事業番号2 可燃ごみ減量、リサイクル率向上

事業番号3 既存施設の老朽化、熱回収率の向上

(4) 施設整備に関する計画支援事業

(3) の施設整備に先立ち、表 4 のとおり計画支援事業を行なう。

表 4 実施する計画支援事業

事業番号	事業名	事業内容	事業期間
31	剪定枝等破碎堆肥化施設整備事業(事業番号2)に係る基本設計等調査事業	施設設計計画等	H26~H27

(5) その他の施策

その他、地域の循環型社会を形成する上で、次の施策を実施していく。

1) 不法投棄対策

葛城市、広陵町とも地域と一体となった普及啓発により、分別区分の徹底を進めるとともに、職員によるパトロールの強化やクリーンキャンペーンの実施による美化につとめ、街灯の設置などを行い、不法投棄の防止を図る。また、葛城市においては平成17年度に各地区に設置した環境委員の協力により、地域での監視体制の強化と、不法投棄の早期発見を目指すとともに、平成16年度より市内各所に設置している監視カメラ(平成24年度末現在 15台設置)の増設を図り、抑止力の増強を図る。

さらに、広陵町においては地元郵便局と「廃棄物の不法投棄に関する情報提供業務委託契約」を結び集配業務中の情報提供を受け不法投棄の監視強化を図ることも検討している。

2) 災害時の廃棄物処理に関する事項

それぞれの市町村が策定した災害廃棄物処理計画を踏まえ、災害時に発生する廃棄物の広域的処理体制の確保を図るため、地域内及び周辺地域との連携体制を構築する。

- ・仮置場 葛城市加守の市有土砂処分場を候補地とする。
広陵町笠の町有地を候補地とする。
- ・最終処分 市町施設・近隣市町・民間委託

4 計画のフォローアップと事後評価

(1) 計画のフォローアップ

各市町は、毎年計画の進捗状況を把握し、その結果を公表するとともに、必要に応じて市町・県・国と意見交換しつつ、進捗状況を勘案し、計画の見直しを行う。

(2) 事後評価及び計画の見直し

計画期間終了後、処理状況の把握を行ない、その結果がまとまった時点で、計画の事後評価、目標達成状況の評価を行う。

また、評価の結果を公表するとともに、評価結果を次期計画策定に反映させていく。

なお、計画の進捗状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画を見直すものとする。

様式1

循環型社会形成推進交付金事業実施計画総括表1(平成26年度)

1 地域の概要

(1)地域名	葛城市・広陵町地域	(2)地域内人口	71,406 人	(3)地域面積	49.90 km ²
(4)構成市町村等名	葛城市・広陵町	(5)地域の要件	人口 面積 沖繩 離島 奄美 豪雪 山村 半島 通疎 その他		
(6)構成市町村に一部事務組合等が含まれる場合、当該組合の状況					

2 一般廃棄物の減量化、再生利用の現状と目標(葛城市・広陵町)

指標・単位	年	過去の状況・現状(排出量に対する割合)					目標	
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成31年度	
排出量	事業系総排出量(トン) (直搬ごみ) 1事業所当たりの排出量(トン/事業所)	5,545	6,153	5,585	5,077	5,445	5,439	(H24比 -0.1%)
	家庭系総排出量(トン) (収集ごみ) 1人当たりの排出量(kg/人)	2.3	2.6	2.3	2.1	2.3	2.3	(H24比 0.0%)
	合計事業系家庭系排出量合計(トン)	18,003	17,374	16,745	16,675	16,452	15,742	(H24比 -4.5%)
再生利用量	直接資源化量(トン)	256	247	237	235	231	223	(H24比 -3.6%)
熱回収量	合計事業系家庭系排出量合計(トン)	23,548	23,527	22,330	21,752	21,897	21,181	(H24比 -3.4%)
中間処理による減量化量	直接資源化量(トン)	3,295	3,005	3,059	2,838	2,678	3,048	(14.4%)
	総資源化量(トン)	7,082	6,389	6,445	6,212	6,042	7,187	(33.9%)
最終処分量	熱回収量(年間の発電電力量 MW/h)	---	---	---	---	---	---	---
	減量化量(中間処理前後の差トン)	15,764	16,198	15,099	14,804	14,989	13,367	(63.1%)
	埋立最終処分量	2,279	2,397	2,217	2,086	2,390	2,147	(10.1%)

3 一般廃棄物処理施設の現状と更新、廃止、新設の予定

施設種別	事業主体	現有施設の内容			更新、廃止、新設の内容				備考	
		形式及び処理方法	補助の有無	処理能力(単位)	更新、廃止、予定年月	更新、廃止、新設理由	形式及び処理方式	施設竣工予定年月		処理能力(単位)
マテリアルリサイクル推進施設	葛城市	破砕・選別・圧縮・貯留	有	4.2t/日	H15.2	老朽・能力不足	破砕・選別・圧縮・貯留	H28.9	8t/日 (拡充4t/日)	
熱回収施設	葛城市	機械化バッチ式焼却炉	有	20t/日	S53.4	老朽・能力不足	熱回収施設 (準連続式焼却炉)	H28.9	50t/日	統合処理能力にはRDF 量を含む
熱回収施設	葛城市	機械化バッチ式焼却炉	有	52t/日	S48.4	廃止・集約				
有機性廃棄物リサイクル推進施設	葛城市					老朽・ごみの減量、リサイクル	安定林等の破砕 堆肥化施設	H30.9	3t/日	新庄クリーンセンター跡 地に建設
ごみ燃料化施設+リサイクルプラザ	広陵町	RDF炭化設備 破砕・選別・圧縮・貯留	有	35t/8h 9.9t/5h	H19.3					
マテリアルリサイクル推進施設	広陵町	保管施設	有	100m ³	H23.4					
マテリアルリサイクル推進施設	広陵町	啓発施設	有	525m ³	H23.4					

様式2
循環型社会形成推進交付金事業実施計画総括表2(平成26年度)

事業種別	事業番号	事業主体名称	規模 単位	事業期間 交付期限	総事業費(千円)					交付対象事業費(千円)					備考		
					平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度			
○再生利用に関する事業					2,250,000	868,000	384,000	338,000	528,000	132,000	2,250,000	868,000	384,000	338,000	528,000	132,000	
リサイクルセンター整備	1	葛城市	8 t/日	H26 H28	1,380,000	868,000	384,000	128,000			1,380,000	868,000	384,000	128,000			撤入道路工事等
剪定枝等破砕堆肥化施設整備	2	葛城市	3 t/日	H28 H30	870,000			210,000	528,000	132,000	870,000			210,000	528,000	132,000	新庄C.C解体等
○熱回収等に関する事業					3,840,000	2,304,000	1,152,000	384,000			3,840,000	2,304,000	1,152,000	384,000			
熱回収推進施設	3	葛城市	50 t/日	H26 H28	3,840,000	2,304,000	1,152,000	384,000			3,840,000	2,304,000	1,152,000	384,000			
○施設整備に関する計画支援事業	32	葛城市		H26 H27	51,000	12,000	39,000				51,000	12,000	39,000				
合計					6,141,000	3,184,000	1,575,000	722,000	528,000	132,000	6,141,000	3,184,000	1,575,000	722,000	528,000	132,000	

地域の循環型社会形成推進のための施策一覧

施策種別	事業番号	施策の名称等	施策の概要	実施主体	事業期間		交付金 必要の 要否	事業計画					備考	
					開始	終了		平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度		
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	環境教育・啓発活動・助成	副読本を活用した教育や、施設見学等により啓発に努める	葛城市 広陵町	H 26	H 30		事業実施						
		炭化物活用研究・フリーマーケット等の情報提供	炭化物の地域内利用の研究を進めるとともに、再使用を促進するため、フリーマーケット等の情報提供を行なう	広陵町	H 26	H 30		事業実施						
	12	マイバック運動の実施	商工会・大手スーパー等と協力しマイバックキャンペーンの実施	葛城市 広陵町	H 26	H 30		事業実施						
	13	分別収集計画	古紙、白色トレイの分別収集・剪定枝の堆肥化の実施(堆肥化は平成30年度～)	葛城市	H 26	H 30		普及啓発		事業実施				
			紙パックの分別を実施	広陵町	H 26	H 30		事業実施						
	14	ごみの有料化	一般廃棄物処理の有料化により、発生抑制する。	葛城市	H 26	H 30		基礎調査検討		事業実施				
				広陵町	H 26	H 30		事業実施						
	21	施設整備に伴う分別区分の変更	循環型社会形成推進のための処理設備整備に伴う分別区分の変更	葛城市	H 26	H 30		普及啓発		事業実施				
				広陵町	H 26	H 30		事業実施						
	22	事業系一般廃棄物の処理計画	多量排出事業者に対し、事業系一般廃棄物の抑制及び適正処理に関する計画書を提出してもらい、ごみ減量化を図る。	葛城市 広陵町	H 26	H 30		事業実施						
	処理施設の整備に関するもの	1	葛城市クリーンセンター(リサイクル施設)	8t/日	葛城市	H 26	H 28	○	建設工事					
		2	葛城市堆肥センター	3t/日	葛城市	H 28	H 30	○		既設解体撤去		建設工事		
		3	葛城市クリーンセンター(熱回収施設)	50t/日	葛城市	H 26	H 28	○	建設工事					
	31	2の計画支援		葛城市	H 26	H 27	○	実施設計等						
その他の施策	41	不法投棄対策	分別区分の徹底とパトロール強化	葛城市 広陵町	H 26	H 30		パトロール強化						
	42	災害時の廃棄物処理体制整備	地域内及び周辺地域との連絡体制の構築	葛城市 広陵町	H 26	H 30		体制整備協議						

施設概要(マテリアルリサイクル推進施設系)

参考資料様式 1-1

都道府県名 奈良県

(1) 事業主体名	葛城地区(葛城市・広陵町)
(2) 施設名称	葛城市クリーンセンター(リサイクル施設)
(3) 工期	平成26年度～平成28年度
(4) 施設規模	処理能力 8t/日(現状施設は4.2t/日)
(5) 形式及び処理方式	破碎選別施設 スtockヤード等
(6) 地域計画の役割	廃棄物リサイクル処理システムの構築
(7) 廃焼却施設解体工事の有無	無

「廃棄物原材料化施設」を整備する場合

(8) 生成する原材料及びその利用計画	_____
---------------------	-------

「ごみ固形燃料化施設」を整備する場合

(9) 固形燃料の利用計画	_____
---------------	-------

「ストックヤード」を整備する場合

(10) スtock対象物	_____
---------------	-------

「容器包装リサイクル推進施設」を整備する場合

(11) 容器包装リサイクル推進施設の内訳	_____
-----------------------	-------

(12) 事業計画額	1,380,000千円
------------	-------------

施設概要(有機性廃棄物リサイクル推進施設系)

参考資料様式 1-2

都道府県名 奈良県

(1) 事業主体名	葛城地区(葛城市・広陵町)
(2) 施設名称	葛城市堆肥センター
(3) 工期	平成 28 年度 ~ 30 年度
(4) 施設規模	処理能力 3t/日
(5) 形式及び処理方式	剪定枝等破碎堆肥化施設
(6) 地域計画の役割	廃棄物リサイクル処理システムの構築
(7) 廃焼却施設解体工事の有無	有

「廃棄物原材料化施設」を整備する場合

(8) 生成する原材料及びその利用計画	_____
---------------------	-------

「ごみ固形燃料化施設」を整備する場合

(9) 固形燃料の利用計画	_____
---------------	-------

「ストックヤード」を整備する場合

(10) スtock対象物	_____
---------------	-------

「容器包装リサイクル推進施設」を整備する場合

(11) 容器包装リサイクル推進施設の内訳	_____
-----------------------	-------

(12) 事業計画額	870,000千円
------------	-----------

施設概要(熱回収施設系)

参考資料様式 2

都道府県名 奈良県

(1) 事業主体名	葛城地区(葛城市・広陵町)
(2) 施設名称	葛城市クリーンセンター(熱回収推進施設)
(3) 工期	平成26年度～平成28年度
(4) 施設規模	処理能力 50t/日(25t/16h×2炉)
(5) 形式及び処理方式	准連続式ストーカ方式
(6) 余熱利用の計画	1. 発電の有無 無 2. 熱回収の有無 有(熱回収率 10%)
(7) 地域計画の役割	廃棄物リサイクル処理システムの構築
(8) 廃焼却施設解体工事の有無	有

「灰溶融施設」を整備する場合

(9) スラグの利用計画	_____
--------------	-------

「高効率原燃料回収施設」を整備する場合

(10) 発生ガス回収効率及び発生ガス量	_____
(11) 回収ガスの利用計画	_____

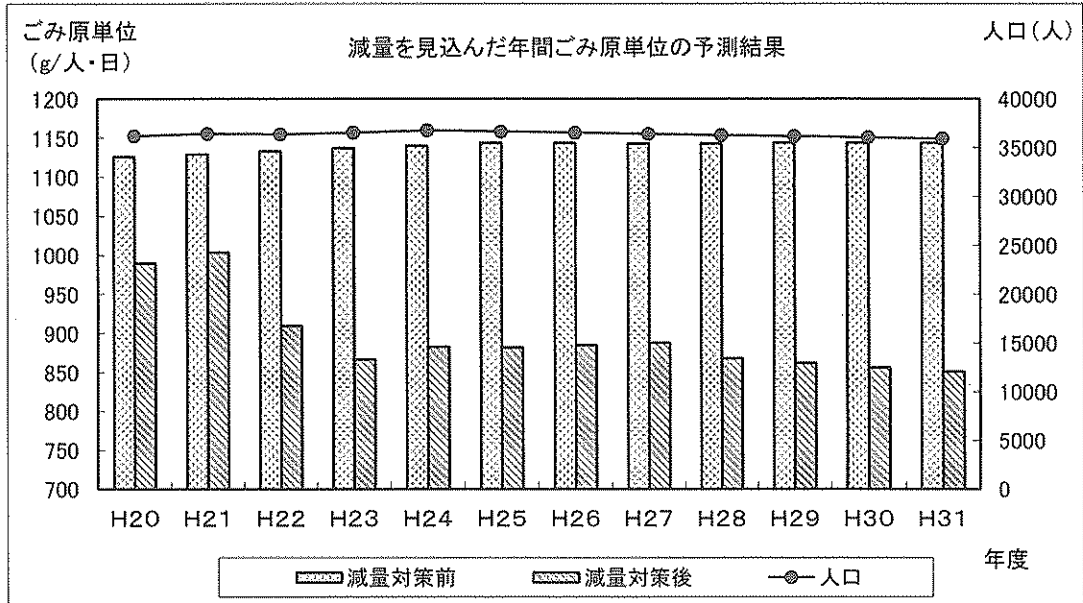
(12) 事業計画額	3,840,000千円
------------	-------------

計 画 支 援 概 要

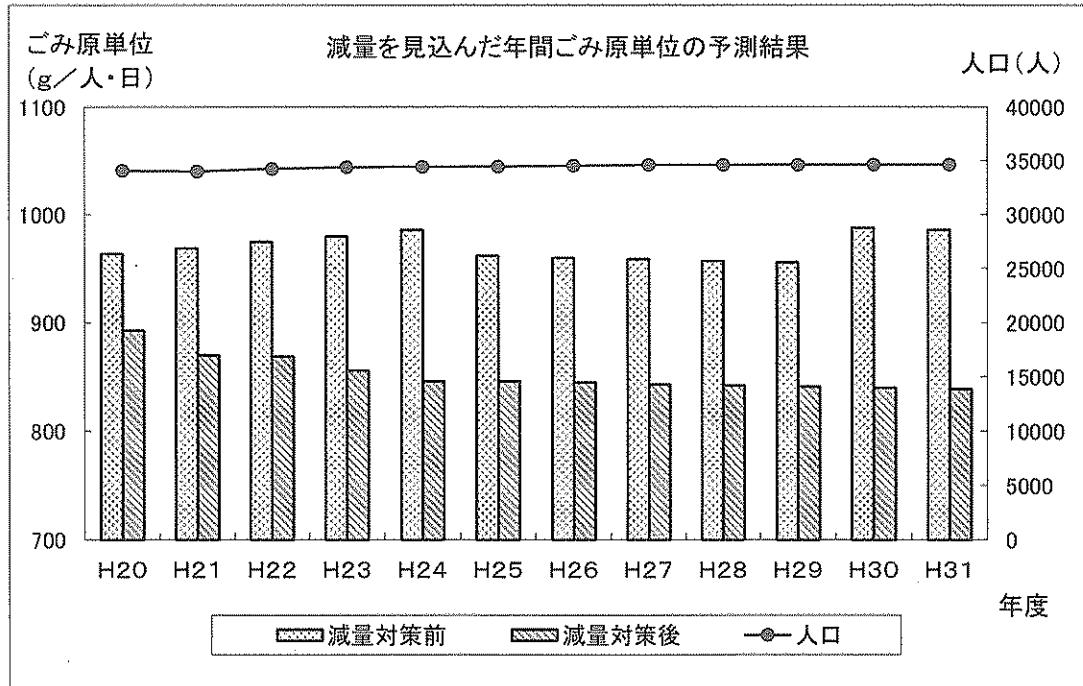
参考資料様式 6

(1)事業主体名		葛城地区(葛城市・広陵町)
(2)事業目的	葛城市	剪定枝等破碎堆肥化施設整備のため
(3)事業名称	葛城市	剪定枝等破碎堆肥化施設整備
(4)事業期間	葛城市	平成26年度～平成27年度
(5)事業概要	葛城市	解体実施設計 基本計画 実施設計等
(6)事業計画額	葛城市	51,000千円

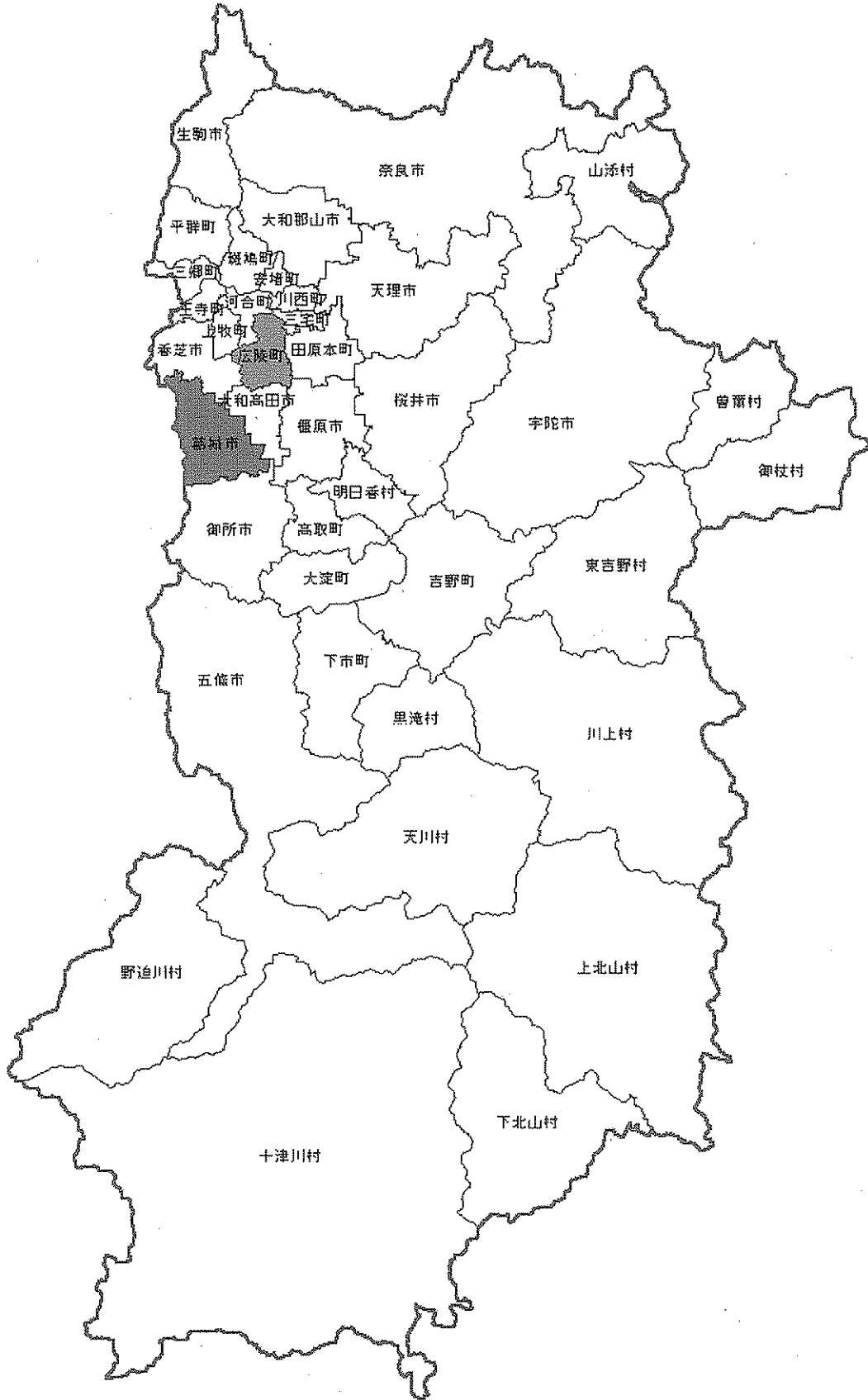
葛城市ごみ原単位予測



広陵町ごみ原単位予測



対象地域図



奈良県広域化ブロック図

